

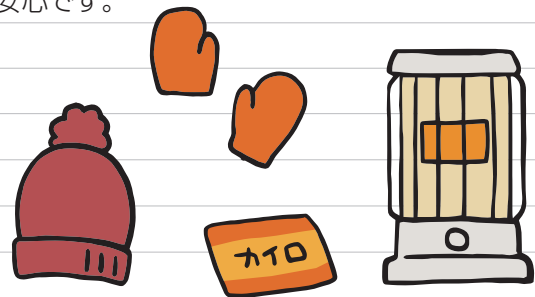
## いつ起こるか分からない災害に備えて 寒さ対策もお忘れなく

今年は、北海道胆振東部地震から5年、北海道南西沖地震から30年、関東大震災から100年となるなど、過去の地震災害を振り返るとともに、今後に備える取り組みが行われています。

北海道胆振東部地震では、道内全域で大規模停電が発生し、断水が起こって飲食が困難になり、携帯電話がつながりにくく、連絡や情報入手が困難になったほか、交通機関が運休するなど、私たちの日常生活に大きな影響が出ました。また、厚真町を中心に大規模な斜面崩壊が起こり、多くの死傷者が出たほか、厚真町の火力発電所と室蘭市の石油コンビナート施設の火災、登別市、安平町、むかわ町などで多数の住宅被害が発生しました。

いつ起こるか分からない地震に対して、みなさんは日ごろからどういう備えをしていますか。水や食料の備蓄、非常時の持ち出し品の準備、家の中や職場で家具などが倒れてこないように、耐震固定をしておきましょう。地震が発生した時の連絡手段や集合場所について、あらかじめ家族で話し合っておくことも大切です。

また、冬季に地震が発生した場合に備え、防寒具や手袋などの防寒グッズをまとめておき、いつでも持ち出せるようにしておきましょう。ポータブルストーブや使い捨てカイロなど、電気がなくても使える暖房器具も準備しておくことで安心です。



## 住宅用火災警報器を設置しましょう

住宅用火災警報器の設置は、消防法で義務づけられています。市内の設置率は9月末時点で全世帯数の92.7%です。胆振東部消防組合消防署厚真支署では未設置の住宅への普及・促進に取り組んでいます。



問い合わせ  
胆振東部消防組合  
消防署厚真支署  
☎26-7119

### 洗濯物の失火を未然に防止！

住宅用火災警報器の作動に気づいた家族が、消火器で初期消火して難を逃れました。原因は、加湿を兼ねて1階リビングのストーブの上に干した洗濯物の落下。洗濯物を干した後、2階で寝ている最中の出来事でした。

寒さを感じる季節になり、長期間使っていなかったストーブなどは事前の点検や掃除が大切です。住宅用火災警報器は、火災の早期発見や防止につながります。大切な命を守るために、住宅用火災警報器の設置・維持管理をしましょう。

今年度から厚真町に居住する65歳以上のみの世帯を対象に、住宅用火災警報器取付費用給付事業を実施しています。詳しくは、消防署厚真支署にお問い合わせください。